

チム九

印刷を支え加工を活かす

武藤悦朗

工場本部 瓜破工場 断裁部門責任者

1年半のアルバイトを経て、2003年(平成15年)から旭紙工業株式会社の社員として活躍されている武藤悦朗さん。現在は工場本部瓜破工場にて、断裁部門の責任者を務めています。今回は、印象に残っているエピソードや、今後の目標を伺いました。



—日頃は、どのようなお仕事をなさっていますか。

断裁部門に所属し、印刷会社から注文を受けたカレンダーや名刺、チラシなどを、断裁機で切る業務を行っています。2019年5月からは部門の責任者になったので、現場で作業をしつつ、進捗状況の管理や段取りの指示も行います。

この部署のメンバーは、日本人4名とタイ人1名の社員のほか、日本人アルバイトが1名、さらにタイ人実習生が約16名。日本語が堪能なタイ人の社員が、実習生との橋渡し役となってコミュニケーションをとってくれるおかげで、良好なチームワークで仕事ができていると思います。

—これまでに失敗した経験はありますか。

入社して3〜4年目、だいぶ仕事にも慣れてきた頃の話です。その日は何種類かの断裁を行うことになっていて、1種類目の作業が終わった時点で不良が出たものは取り除いておきました。ところが、その分を処理するのをすっかり忘れていけるよう、先々を見通して予定を立てることを心がけていきま

す。自分の手がけた製品に誇りを持ち、日々の仕事と真摯に向き合う武藤さん。生産性と品質の向上を目指し、これからも会社の発展に貢献していくことでしよう。



—最も思い出に残っているお仕事を教えてください。

やはり入社して3年くらいの頃に受けたタイトルシートの仕事です。ゲームのパッケージに入っている紙の部分を断裁しました。

ある日、甥っ子にゲームを買ってあげるため、一緒におもちや屋さんに出かけました。売り場の棚には、ずらりとゲームのパッケージが並んでいます。その中に、自分が関わった製品を見つけたのです。世間でもよく知られたメジャーなゲームで、思わず甥っ子に「これを作ったんだよ」と自慢しました。自分が手がけたものが世に出ていると改めて知った瞬間で、感慨深いものがありましたね。それを機に品物に対する意識が変わり、より品質のよいものを作っているという気持ちが強くなりました。

—品質のよい製品とは、具体的にどのようなものを指すのでしょうか。

指定の寸法通りにしなければなりません。特にタイトルシートの

—最後に、この先の目標をお聞かせください。

部門の責任者として、売り上げを人数で割った数値であるアットマークをより意識しながら仕事に取り組んでいきたいですね。旭紙工における1時間あたりの目標値は3600円。そこを常に上回っ

れていたのです。別の作業が終わったとき、はっと気付いて急いで確認すると、先ほど取り除いたものが混ざってしまっていました。すぐさま部署のスタッフ全員で検品に取りかかりましたが、確認が終わるまで4時間も費やし、みんなに対して申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

当時の上司には「自分のミスでも、自分一人で回収できるわけじゃないんだ。みんなに迷惑もかかり、仕事の時間もなくなってしまおうのだから、これからは気をつけてね」と注意され、詰めの甘さを反省しました。今後気を引き締めていかなければと痛感した出来事です。

企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：15億円
- ◆ 従業員数：200人

※ 2018年12月実績

設備紹介

—ステッチライナー—



約15年前から旭紙工で活躍するステッチライナー。小さなサイズに対応し、カレンダーの製本になくてはならない存在です。今回は、松尾さんにその機能や扱う際の注意点、攻略までの格闘した日々を語っていただきました。



私が紹介
します！

工場本部 マルチ部門
課長
まつお たけし
松尾 剛志さん

多様なサイズに
対応できる

Q.どのような設備でしょうか

カレンダーの丁合作業など、製本する際の機械です。丁合とは、表紙から12月まで、別々になっている紙を順番に組み、揃えていくことをいいます。使用するのは中綴じなどの最終工程で、仕上がりはホッチキスで閉じたような形になります。コの字型の機械で、大きさは1番長い部分だと3~4メートルほどあるのではないのでしょうか。カレンダーの丁合機だと、B3の大きいサイズが主流なので、小さいサイズは丁合が取りづらくなります。しかし、このステッチライナーは、基本的にA3サイズからA4サイズに製本していくので、小さいものでも対応できる丁合機となっています。

欠かせない存在

Q.現在の設備はいつ導入されたものですか

私がこの役職に就く前から使っているので、15~16年ほど前になると思います。

扱いやすさが
ポイント

Q.使用するには資格や免許等は必要でしょうか

使用するにあたって免許が必要ということはなく、ボタンを押すだけでできます。他の製造機に比べて扱いやすい機械ですが、紙を間違えて積んでしまうと大事故に繋がります。なので、ルール通りに扱うことが必要になります。

マルチの腕の
見せどころ

Q.現在この設備を使用できる方は 何名いらっしゃいますか

私を含め、マルチ部門に所属している4名になります。

期待の女性社員

Q.その中で一番「達人」な方を 紹介してください

11年目のベテランで、このステッチライナーを使いこなしています。女性ということもあり、細かい確認事項に従って操作することが得意なので、ステッチライナーの特徴に合っていると思います。梅垣さんは真面目な性格で、分からないことがあれば積極的に質問し、より良い方向に繋げる努力を怠りません。自分の考えを持っていながらも、それが間違っていれば自分なりに補足して、変えていける柔軟さもあります。女性が少ない職場なので、梅垣さんを中心に女性メンバーを盛り上げてほしいと思っています。

うめがき なつみ
梅垣 菜摘さん



1番大切なのは
注意力

Q.使用上での注意点

CCDカメラがありますが、機械なので反応しないこともあります。なので、紙を積むときには目視で確認し、積み間違いをしないよう注意が必要です。

皆で
乗り越えた課題

Q.その設備を使用しての一番思い出に残っていること

使い始めは、丁合機から紙が出てこないという問題が発生し、私が今使っている機械の中ではその扱いに1番苦労しました。機械によって、紙の厚さには許容範囲があります。なので、最初はその範囲を模索することから始まり、時には規格外のものを試してみたことも。「この紙はいけるだろうか。」「これは駄目だった……。」と日々試行錯誤していました。我社は、皆の考え方を幅広く取り入れることを大切にしているので、自分の意見に固執せず、皆で意見を出し合いながら解決に努めました。

仕事にも楽しさを

Q.工場本部 マルチ部門における今後の目標

第一の目標は、若手の教育と成長です。9~11月が繁忙期ですが、今のままでは心配なので、いかに皆のモチベーションを高め、成長させていけるかが今後の課題だと考えています。またタイから来た研修生に対しては、積極的なコミュニケーションが必要になってきます。大変な毎日の中にも楽しさを見出すことができなければ、やりがいも感じられません。朝や帰りに声をかけて会話の時間を作るなどして、楽しい職場にしていければと思っています。

